

学 界 報 告

〔学 会 名〕

IPA Preconference Workshop-run by
ISSOP and ICANCL

〔参加セッション名〕

Street and Working Children-Regional
perspectives

〔発表題目〕

Street and Working Children Regional
perspectives from Japan

〔大会期間〕

2023年2月19日(日)~2月23日(木)

〔場 所〕

Indian Institute of Public Health,
Gandhinagar and Mahatma Mandir
Convention and Exhibition Centre

大学の渡航費助成を受けて、インドのガンディナガルで開催された国際小児科学会(IPA)のプレカンファランス・ワークショップで日本のストリート&ワーキングチルドレンの実情を発表した。日本におけるこの問題を、私は国際社会小児科学小児保健学会(ISSOP)の電子会報の小論文にまとめたところ、その内容を本企画で口演するよう依頼され、今回の渡航となった。私からは、ストリートチルドレンに関しては、NPOなどからの聞き取りを通じ「グリ下」「トー横」の子どもたちの状況とその背景を、ワーキングチルドレンに関しては、厚労省文科省の2021-2022年の小学6年生から大学生を対象としたヤングケアラー実態調査に基づく彼らの状況を、それぞれまとめて示した。このセッションでは、サハラ以南のアフリカ、トルコおよび中東、さらにアメリカの状況が共有された。アメリカでは、移民を中心に子どもの人身売買が社会問題になっている。この企画では、インドの元ストリートチルドレン4人の生の声を聞き、何を私たち小児科医に

期待するか討議するセッションがあり、彼らとの交流は強く印象に残る経験となった。最後に「ストリート&ワーキングチルドレンの健康、ウェルビーイングそして権利の最適化をめざす宣言」が採択された。この企画が掲載されたインド子ども虐待・ネグレクト・児童労働グループ(ICANCL)のCANCL NEWS 2023が、当日配布された。

IPA本体の方では、「COVID-19パンデミック下で何が起きているのか -日本における2019年と2021年での調査結果の比較-」が演題採用されたが、E-Posterのため、口演する機会はなかった。会場では、アメリカ、オーストラリア、イギリス、アイスランド、スペイン、インドのISSOPメンバーと主に過ごし、小児保健および子どもの権利に関わる講演やワークショップに参加した。

印象に残った講演や企画を紹介する。Sandhya教授の「インドにおけるストリート・チルドレンの願いに叶った公的病院の役割」という講演で、彼女は最後に「幸せは、あなたが何を所有しているとか、あなたが何者なのかによるのではなく、それはただあなたが何を考えるかによるのです」というブツダの言葉で締めくくった。また、イギリス医学会雑誌(BMJ)やランセット(The Lancet)他の編集者による各誌の企画運営に関するセッションでは、こうしたメジャーな雑誌で子どもの権利を重視する特集を組んでいること、より発展途上の国から虐待などへの対応の実践家による報告が掲載できるように配慮していることが報告された。また、中国とヨーロッパ小児科学会合同での加工離乳食の安全性確保のプロジェクト(SAFFI)には驚かされた。中国は世界水準で動いている。また、WHOの母乳育児セッションで、加工ミルク企業と学会とは明確に関係を絶っていることが示されたが、一方日本の本学会への参加者で、私以外日本WHO協会の中村安秀氏にしか出会えず、ミルクの広告は日本小児科学会誌に掲載されており、国際社会

の常識や流れと日本の状況、なんとも気がかりになった。

せっかくの機会なので、ガンジーの暮らした建物を含む、記念館にも足を伸ばし、彼の歩みを肌で感じることはできたのは、今回の旅で私にとっての大きな意味のある出来事となった。 (武内 一)